

信頼される学校であるための行動計画

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園

私たちは、特別支援学校に勤務する教職員として、児童生徒の障がいに基づいた誠実な支援により、児童生徒及び保護者関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨みます。

1 信頼される伊賀つばさ学園であるための決意

- ・一人ひとりが組織の一員としての意識を高め、組織的・計画的・意欲的に協働して教育活動に取り組みます。
- ・教職員としての使命と職責の重さを認識し、高い志をもって、人として、教職員として成長を重ねるべく、コンプライアンスはじめ、教育課題等の研修に励みます。

2 具体的な取り組み

(1) 教職員の規範意識の確立と組織としての不祥事防止体制の確立

- ・定期的にセルフチェックシートを用いて、自らの言動を振り返る機会をもつ。(年12回)
- ・他校での事象等を取り上げたコンプライアンス研修の実施や、本校でのヒヤリハット事例の共有を行い、防止に努める。(コンプライアンス研修 年3回以上)
- ・スクールカウンセラーを活用して、教職員と連携して児童生徒が相談しやすい体制を作る。(定期相談 年9回)
- ・てんかん等の緊急対応訓練、子どもの安心安全に係る研修を行い、教職員の意識、スキルを高める。(年6回以上)
- ・児童生徒の個々の実態を把握して、保護者の願いや思いを丁寧に聞き取り、合意形成のもと指導を行う。
- ・児童生徒の支援・指導について自ら振り返る機会を持ち、学級や学年、学部で情報共有する。また、必要に応じて管理職に報告、相談する。
- ・保護者や関係機関との信頼関係を築くことの大切さを一人ひとりが認識して、丁寧な対応を行う。

(2) 職員が互いに支え合い、尊重しながら働くことができる職場づくり

- ・学級や学年、学部を超えて、教職員どうしが気軽に話をしたり、互いに相談し助け合えたりできる風通しのよい職場風土を醸成する。
- ・管理職と教職員との定期的な面談だけでなく、いつでも気軽に相談ができる環境を作るとともに、スクールカウンセラーや産業医と連携し、教職員の心身の健康を保つ取組を進める。(定期的な面談 年3回)
- ・業務の精選と効率化を進め、総勤務時間の縮減に努めるとともに、平準化に向けた取組を進める。

令和8年4月